



## 中学校、保育園、ケアハウス、公会堂… 行徳のまちの顔となる複合施設が完成!

### 市川七中行徳ふれあい施設

末広1丁目の市川七中行徳ふれあい施設の竣工式が、2004年9月4日に行われました。



周囲には行徳支所や公民館、図書館もあり、市民があらゆる用事で行き来する。

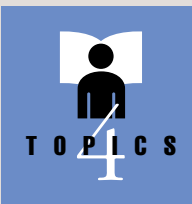
「ふれあい、交流」をキーワードにつくられたこの施設は、市として初めてPFI事業（民間の資金や技術、運営の手法を活用し、効果的に公共施設の整備・管理・運営を行う事業）を導入した施設です。市立第七中学校、すえひろ保育園、行徳ケアハウス翔裕園、行徳デイサービスそよ風、行徳文化ホールI&I（あいあい）が併設されており、全国的にも前例がない複合施設となりました。コンクリートの壁面とガラス、鉄骨の美しさが際立つ外観には、今まで市民に

行徳文化ホールI&I（あいあい）の中にある公会堂。



親しまれてきた木々を残して彩りをそえるなど、いたる所に民間事業者の創意工夫が盛り込まれています。

これら施設の核となる行徳文化ホールI&I（あいあい）には、647人が収容できる公会堂と、3つに分割可能な大会議室があり、地域に開かれた多世代交流の場として活用していきます。



## 相撲や演芸の魅力を伝え続けた 故・小島貞二さんの作品を存分に味わう

### 第6回市川の文化人展「小島貞二の世界」

市川市を拠点として活躍する文化人の作品や業績を紹介する「市川の文化人展」。8月19日から25日まで開催された今回は、故・小島貞二さんを取り上げました。小



旧制中学卒業後、漫画家を志して上京したが、182センチメートルの長身を見込まれて出羽海部屋で力士を経験。後の相撲記者生活に大きな影響を及ぼす。

島さんは1919年、愛知県豊橋市に生まれ、力士、新聞記者を経て、演芸評論、放送作家などさまざまな分野で活躍。1947年から亡くなるまでの約55年間で中山で暮らし、生涯現役で相撲や演芸の魅力を伝え続けました。

小島さんが生前にしたための都々逸「寄席と相撲と日本が好きで 生きているのはもっと好き」は、自身をもっとも簡潔で的確に表現した言葉です。

展示では、終戦直後に収容所内で描いていた連載漫画「寅さん」の原画、新聞や雑誌の記事、TVやラジオの台本などを公開。軽快な語り口で書かれた原稿は



横綱写真帳や歴代横綱手形コレクションなどは、整頓されて残されていた。

ユーモアにあふれ、小島さんの人柄が伺えます。また、膨大な数の相撲・演芸コレクションからは、いかにそれらが好きだったのかがわかります。

幅広い活躍をした小島さんの作品や業績に、多くの人が見入っていました。



## 市内初の防災公園が大洲1丁目に完成! 普段から親しんで災害に備えよう

### 大洲防災公園

2004年4月11日、大洲1丁目の明治乳業市川工場跡地にオープンした大洲防災公園は、市内初の防災公園です。平常時には野球やサッカー、デイキャンプができる憩いの場として使用されますが、災害時には近隣住民が避難生活をおくる一時避難場所になります。

広い公園の周囲には二次災害を防ぐための防火樹林帯があるほか、地下には1万人が3日間利用できるよう100トンの水を貯える耐震性貯水槽が備えてあります。10月には消防出張所や急病診療所などが入る「急病診療・ふれあいセンター」も公園の隣に開設され、災害時には傷病者への迅速な対応が可能です。

公園の管理作業は、計画時から関わっている地元の11自治会の協力を得て行っています。災害時には各自治会がお互いに助け合い、協力し合うことができるよう、普段からの交流を大切にしています。万が一災害が起きても落ち着いて避難ができるように、市民が公園に慣れ親しむことを目的としたイベントや防災訓練が開かれています。

産業道路沿いにある大洲防災公園。広さは2.8ヘクタール。



避難生活に必要な水がどこにあるのかを普段から知っておくためにつくられたせせらぎ。



休憩場所として使うあずまの屋根には、テントの布がくくりつけてあり、避難所として活用できる。



サッカーや野球ができる広い芝生は、緊急時にはヘリポートとなり、救護・輸送活動の拠点になる。



ベンチの腰かけ部分を2人で持ち上げると、かまどに早変わり。



2004年4月11日の開園式で行われた防災訓練。